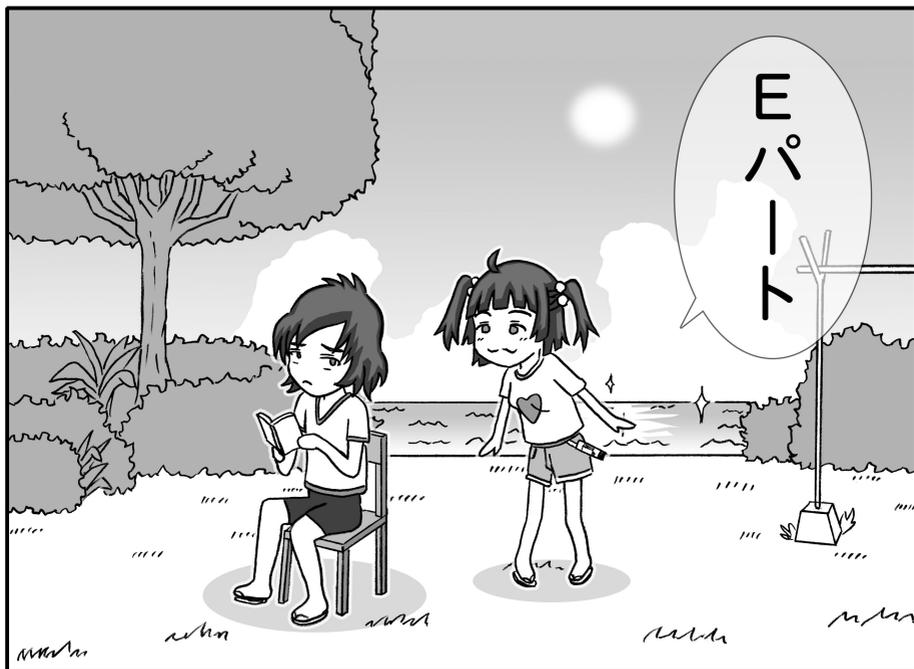


◆ ネタバレ注意！

この文書は、同人誌リブレイ「あの夏にかける橋」の本編では明かされなかったネタバレを「Eパート」という形で文章に起こしたものです。

本編を読んでいない方は、くれぐれも読まないようにしてください。

また、本編のほうを読んで、想像していた真実と異なっていた場合、あなたの思う真実のほうを優先してください（笑）



★ E パー ト①／合宿も、明日で終わりね……

克敏 今回の「フルート」ということで？

GM 「E パー ト」ね。ひとつ飛んだ上に用語が違うという(笑)。

本編のラストからは少し時間が遡って、合宿最終日の夜になります。時系列的には、D パー ト②と③の間です。

克敏 シホとは確か、こっちが呼び出して勝手にウダウダ語って帰っていきましたよね。

GM それはC パー トで、合宿四日目だったね。本編では、そこらいつきに最終日に飛んだんだけど、その間の省略されてる部分にE パー トをぶっこみます(笑)

克敏 なるほどっ(笑)

GM 四日目の時点では、シホちゃんも言いたいことがありそうなのに話せず仕舞いだっただけで、合宿最後の夜になって、最終的にシホちゃんも誰かに打ち明けたかったんでしょね。ま、そういうシーンになります。

克敏 オーケーオーケー。

——合宿最後の夜。

克敏は、いつものように件のつり橋の前に佇んでいました。

克敏 ……ナミカとハルアキがうまくいくようになって祈ってる。

GM ああ、今まではちよっと意味合いが違う感じか。

克敏 うん。「これでよかったんだ」と自分に言い聞かせながら、上を向いている。ちよっと神秘的な顔をしています(笑)

GM なるほど。——そうしていると、不意に、冷たい風がきみの頬をなめます。

風は陸のほうから橋を抜けて、その先の逢瀬岬へと吹き抜けてゆくようです。

まるで誰かが克敏を岬のほうへと誘っているかのようでした。

G M そよそよ……と、風が岬のほうに向かつてゆく。どうします？
克敏 ふと目を向けて、夢遊病患者みたいに、風にまかせて歩いて行きます。「どういえば、この先は行ったことがないな……。ナツミはこの先に行ったのかな……」
G M ナツミちゃんが落ちてしまった橋を、おそるおそる進み、そして岬の方へ出ると……、暗がりから「……誰っ？」という声がします。
克敏 「あ、驚かせてごめん。大友だよ」

ライトを照らすと、そこには一人の少女の姿がありました。
——それは、水泳部部长、日向シホでした。

克敏 「……誰かと思ったら、部長さんかあ。どうしたんだい？」
G M /日向シホ 「なんだか眠れなくて……。あなたもなの？」
克敏 「僕は……」苦笑いしながら「……いつものことだから。ここに來てから、夜は橋のところに來るのが習慣になっちゃって」
G M /日向シホ 「そうだったの……。合宿も、明日で終わりね……」
克敏 「うん」

G M /日向シホ 「なんだか、疲れちゃった……」その顔はどこことなく憂いに満ちている(笑)
克敏 じゃあ、しばらく何かを思索げに考える顔つきをして、「何か、引つかかっていることでもあるのかい？」って訊いてみよう。
G M 彼女はしばらく黙っています。ふと、きみに声をかけてきます。
「例のネックレスのこと……、知りたがってましたね」

克敏 ここは敢えて何も言わない。沈黙の肯定みたいな感じで。
G M じゃあ、続けますね。「どうして？ あなたは彼女とどんな関係だったの？」そもそものが知らなかったと(笑)

克敏 知らなかったと。残念っ！(笑)
G M 克敏が真実を探っていたので、なんとなくは分かっていたかもしれないけど、明確には知らなかったんだ。
克敏 「……そっか。ナツミのやつ、言ってなかったんだ」って苦笑してから、「日向、僕は……ナツミと付き合ってたんだ……」と、素直に率

直に言っちゃう(笑)

G M では、そのとき「ビュオオオ——」と強い風が吹きます。そして、日向さんの髪が風に乗ってバラバラと舞います。

克敏 「ナツミのことだから、日向には言ってるものとはかり思ってたんだけど……」ちよつと頬をかきまします。

G M 彼女は驚いた表情を見せませんが、やがて悲しそうな表情になり、「……そう……」と呟きます。「彼女、あのネックレスをいつも大事にしていたわよ……。いつも服のなかに付けていたし、水泳の練習のときだって外したことはなかった……」

克敏 「……うん」
G M /日向シホ 「だから、すぐにピンと來たの。それが彼女の大切な人からの贈り物だろうってことに……」

克敏 ……………。
G M 彼女は何度かきみの顔色を伺ったあと、表情から一切の迷いを吹つきり、つらそうにきみと目を合わせると、意を決して続く言葉を紡ぎます。

「——ねえ、聞いて。」

今からあなたに『一年前の真実』を伝えるわ。

それを聞けば、あなたはきっと私を許せなくなるでしょう。でも、あなたには知る権利がある……………」

克敏 ……聞きたくないような、聞きたいようなっ！(悶絶)

G M P Cの気持ちを感じる(笑)。そうしたら複雑な表情をしとけばいいんじゃない？

克敏 うん、正直言って辛そうな顔はする！

G M でも、心の奥底では気になっている所だとは思うんだよ。
克敏 しばらくつらそうな顔で下を向いている。

G M じゃあ……、
夜の海が静かに波を打つ音が、辺りに響き渡っていました。

★E.パート②／返してッ！

GM では、ここからは日向さんの回想イベントになりますので、PCは登場できませんが(笑)

克敏 おふっ！ いいですよ全然(笑)

GM 何かあればどんだんプレイヤー発言してください。

克敏 うん！

GM 「あの日、私はある話をするために、彼女を探していたの……」と喋り口調でナレーションが始まります。

———そしたらある部員から、彼女が誰かと一緒に岬のほうへ行ったっていうのを聞いて。

行ってみると、橋の手前のあたりで、我修院くんが入れ違いに走り去って行くのが見えたわ。

ただならぬ雰囲気だったから、思わず隠れてしまったのだけれど。

そして、橋のところに水流乃さんがいた。

彼女は高所恐怖症だったから、いつまでも橋の上でまごまごしていたわ。

克敏 えっ！ ちょっと待って、新事実っ！(笑)……あ、あれっ？ ナ

ツミって、高所恐怖症だったのっ？(笑)

GM ええ、実は最初からそうでした。俺も忘れてただんだけど(笑)。っていうか、描写するシーンがなかったんだ！

———だから、私のほうから彼女のほうへと近づいたの。

そこで、私は彼女に、それまでずーっとしたくてもできなかった話を切り出した。

話しているうちに、なんとなく口論みたいになっていって、それで………。

GM といったところで、二人の会話に入ります。
克敏 ふむふむ。

「ジュンペイ君のこと、どう思ってるの？ 好きなのッ？」

GM まあお気づきかも知れませんが、部長はモリリンのことが好きでした。それで気になって聞いたのですが。ナツミちゃんはどう答えたかという………。

「え？ ど、どうって……べ、別にどうも………」

GM 戸惑った様子です。

「うそッ！ じゃあこのネックレスは何なのっ？ ジュンペイ君にもらったんでしょッ！」
「ちっちゃが！ こ、これは……ッ！」

私は無理やりにネックレスを剥ぎ取った。

そしたら彼女、「返してッ！」ってすごい慌てだして。お互いにムキになって、二人でもみ合いになった。

そんな時……、海のほうから、ものすごく強い突風が吹いたの。

つり橋は大きく揺れた。

橋を支えていたロープが音を立てて軋んで、揉み合っていた私たちは大きくバランスを崩したの。

そのせいで、私はネックレスを手放してしまった。

ネックレスは、橋の踏み板のところになんとか引っかかったけれど、さらに風が吹けば今にも落ちそうだった。

ネットレスを拾うには、海風に揺れた橋の上で屈まなければならぬけれど、高所恐怖症である彼女には、絶対にできることじゃなかった。

それなのに。そのはずだったのに……………。

——その時、彼女は悩む素振りすら見せることは無かったわ。すぐに不安定なつり橋の上で屈んでみせたの。

彼女がネットレスに手を伸ばしたその時よ。彼女の足元を支える踏み板が割れてしまったのは。

私が手を伸ばした頃には、…………もう遅かった。

そのまま彼女はネットレスと一緒に谷底に転落して、それで…………

GM といったところで回想イベントは終了になります。これが、一年前の真実でございます。

克敏 うーん…………、なるほど（笑）

GM そうか、克敏は我修院くんが走り去って行くクダリは知らないんだよね。でもまあPCが分からなくても、読者が分かればいいか（笑）

克敏 ……ん？ これ、我修院の告白とは、まったく別件ってこと？

GM ーまあ、ナツミは橋を渡らないで済んだというのはある。ただ、我修院がいなければ、ナツミは橋を渡らないで済んだというのはある。

克敏 その後、日向シホに出会わずに済んだっていうことも…………。

GM ー、彼女はナツミを探していたので、どのみち会うっちゃ会うんだけど、それが「橋の上」だったかっていうと、「マーク」がつく感じ。さらに、シホがネットレスを奪い取らなければっていうこともあるし。色々不運が重なった結果なんですね。

克敏 有体に言ってしまうえばそういうことなんだろうな。橋の上でもみ合ってるうちに落ちたってことなら過失致死にもなり得るんだけど、ナツミの場合、本人から飛び込んで行ったようなものだからなあ。

GM じゃあ誰が悪いんだ？ っていうと、複雑な感じだね。

克敏 まあ、誰も悪くはないんだろうな。

★ Eパート③／ああ。必ず行くよ。

GM では、最後のイベントに入っていきたいと思いますが、よろしいですか？

克敏 はいはい。

GM 回想から今に戻ってきます。で、シホちゃんが言います。

「私が嫉妬に駆られて、ネットレスを奪ったりなんかしなければ、あんなことには…………っ！」

GM 頭を抱えて取り乱しております。「だから、悪いのは全部、私なんですっ！」

克敏 プレイヤー発言とほぼ同じになっちゃうけど、そこはハッキリと彼女の目を見て言う。「いや、きみは悪くないよ。それどころか、事の発端は僕かもしれない。僕がああネットレスをあげなければ、彼女もそれを追うようなバカなこととはしなかっただろう…………」目の端に軽く涙を浮かべます。

GM あーそうか。では、きみがそれを言い終わる前に、森ジュンペイ君が登場します。

「お、お前！ それ本当なのか？ どうして今まで黙ってたんだよっ？」

GM 叫びながら登場します。それに気づくと、日向シホが行動を起こします。

「じ、ジュンペイ君！ いや、いや…………こ、来ないで…………っ！」

彼女は二人から離れるように後ずさりを始めると、ふいに「ギャッ！」という小さな悲鳴を上げます。

克敏 「日向ッ！」って言って手を伸ばす。

GM オーケー。彼女の足が崖から滑り落ちます。華奢な体が宙に投げ

出されるのを追うようにして、きみの手が彼女に伸びる。——と、ここで判定が行なわれます。

GM 判定はい(笑)

GM 彼女の体を捕まえる判定になります。目標値16の(運動)と(好感)の混合判定になります。目標値16の(運動)と(好感)の混合判定になります。

GM 目標値16かつ……(笑)

GM ここは成功しないとカッコ悪いぞ!(笑)

GM 克敏はどちらの技能も持っていないので、基準値は【メンタル】のみ。7+3Cで判定を行なうことに。

GM 特殊技能は何を持ってたっけ?

GM 克敏 一応(人情)があるけど、「ソウルメイト」のための判定でないしボーナスにならない。

GM 「ソウルメイト」の枠が空いてれば、「日向シホ」を加えることで効果が得られるぞ。

GM 克敏 ……一人分空いてる。じゃあ、さっきの独白を聞かせてくれたことで、「日向シホ」を「ソウルメイト」に加えます!

GM それで(人情)の効果が得られる。そうすると、8+3Cだな。

判定の結果、達成値19で成功しました!

GM では、きみは彼女の体を捕まえることには成功しますが、

GM 克敏 はい!

GM 思ったより重い!(笑) 支えるので精一杯で引っ張り上げるこ

GM 克敏 そこは【ボディ】だ! 高い【ボディ】でがんばる!(笑)

GM 森ジュンペイ君が「ファイター!」と言ってきみのもう片方の手を引きまます(笑)

GM 克敏 「も……り……て、つ、だ、え……つ」(笑)

GM ジュンペイくんを力と力を合わせて、なんとか彼女の体を引き上げる

ことができず。全力を振り絞ったためか、きみたちは息を荒げてその場にへたり込みます。

GM 潰れると(笑)

GM 克敏 潰れると(笑)

GM ぞして、「バカヤロウツ!」と、ジュンペイが日向を激しく叱ります。「何考えてんだッ?」

GM 克敏 「も、森……やめてやれッ」

GM GM/森ジュンペイ 「うるせえ、言わせる! 二年連続で死人を出して、水泳部が潰れたらどうしてくれるんだッ! 真面目に練習している西島や水流乃の弟に、申し訳が立たないだろオツ!」

GM 克敏 ごめん。その台詞の途中で森をブン殴る。

「やめろって言うてるだろッ!」

それまでずっと薄く閉じられていた克敏の目が、思わず見開かれました。その瞳はまっすぐに森ジュンペイを捉えていました。

「彼女がどんな気持ちで僕に話してくれたのか、お前には分からないのか!」

お前だつて聞いてたんだろ? 日向だつてナツミを死なせようと思つてたワケじゃないんだ!」

GM ……なるほど。ジュンペイは話を途中しか聞いてなかつたので、

ここで叫びます(笑)。「お前には関係ねえだろオツ!」

「……お前なんか、何が分かるってんだッ!」

GM 克敏 じゃあ悲しそうな顔をして、「……分からない。分からないよ……でも、こうして生きてるじゃないか」って言うかな。「日向もこうして助

かったんだから、それでいいじゃないか。しかも、彼女はただ足を滑らせただけだ。自分から命を絶とうとしたわけじゃない」

GM GM まあ、ジュンペイ的には日向のことを心配して怒ってくれたわけ

なんです。

克敏 うん、知ってる(笑)

GM どーしたらいいかな、そう言われたら(笑)

克敏 「だから森……今は抑えてやってくれ」

GM うーむ。じゃあジュンペイ君はクールダウンして日向の様子を見ます。彼女は涙を流してうっむいてますね。そして、「……すまん日向。言ひすぎた」と呟きます。

「……大友の言った通りだ。水流乃が死んだのは、お前のせいなんかじゃねえさ。
ひとつのネットワークに固執したあいつ自身に、責任のあることだよ」

克敏 「そうだよ、日向……。他の誰かが悪いってわけじゃないんだ」

GM/森ジュンペイ 「……そうだ。ネットワークさえなければ、こんなことにはならなかったとも言える(笑)」

克敏 お、お前なあ。大友くんがどんな気持ちで渡したと思ってるんだー！(笑)

GM うん。きみを責めるようなことを言うんですよ。そうとは知らずにね。

克敏 「……そうだ。それは僕の罪でもある」

GM/森ジュンペイ 「……どういふことだ？」

克敏 途中しか聞いてなかったんだよね？ じゃあ全部、かいつまんで話します。

GM ジュンペイ君、かなり動揺しちゃいますね。突然きみの襟首を掴み上げます。その瞳からは涙が流れています。「おお、おまえが……っ！」泣き叫びのような声を上げます。もう本人もどうしていいか分からない感じですね。

克敏 「……森。僕を殴るんだったら殴れ」

GM うおお、カッコいい！(笑) そうすると、筋肉ムキムキの右腕を「ンヌーッ！」と天高く振り上げます。

克敏 黙って受け入れる。

GM その一撃を無抵抗に受けようものなら、おそらくタダでは済まな

いだろう。そして、今にもその拳が、きみの顔に注がれるかという、その時ですね。

——その時、突然、あたたかい海風が吹きます。

海風は、つかみ合う二人を包み込むように優しく流れてきました。

GM ……と、いったところで、ここでもういっちょ判定です。

克敏 お！

GM 目標値14の(六感)チェックになります。ここも、失敗してしまつと良い展開にならないぞ(笑)

克敏 ふう——っ！ 相変わらず(六感)は持ってない！(笑)

この判定は、「ツキ」を2点使用してなんとか成功しました。

克敏 4ゾロ！

GM 達成値15で成功だな？ ここ成功すると「ツキ」+2点になります。おめでどう！

克敏 やった！ ゾロ分で収支+1だ(笑)

——その瞬間、克敏はかすかな声を聞いた気がしました。

その声はとてもやさしげで愛おしく、あふれる幸福感とともに、きみの耳元に囁きかけてきたのです。

その声を聞いただけで、きみの心のなかにあつたわだかまりが、すべて晴れてゆくようでした。

GM とても不思議な声でしたね。森ジュンペイ君も呟きます。「……今の声、もしかして……？」シホちゃんも「私も聞いた……！」二人とも聞こえたようですね。

克敏 今度こそ涙を流して、「ナツミ……ここにいたんだな………」と、そんなことを言いながら、泣き崩れます。

GM ……もしかししたら、きみのことをずっと傍で見守っていたのかも

しれませんな。

克敏 まあ、どうかは神のみぞ知る！（笑）

G M そして森ジュンペイ君が泣きますね。「あいつ、この期に及んでまで世話を焼いてきやがったな……」

「あいつは、いつも自分のことは二の次で、周りに気を配っててさ。それなのに、あいつ自身は、あいつが大切にしていたもののせいで死にじまうなんてよ……なんて皮肉な話だよ。」

あいつの死は、まるで運命で決まっていたみたいじゃねえか……」

G M やるせない感じで泣きます。

克敏 そこで大友くん、半べそかきながらキレるかな。「運命だなんて言うな！……こんなのが運命だなんて、あんまりにも……あんまりにも…………っ」とかかって言いながら、また。

G M 涙流す？

克敏 半べそっていうより、もはやガチ泣き！（笑）

G M すると日向シホもつられて「うわあ——っ！」と声をあげて泣く感じですね。ジュンペイだけではどうにか感情を抑えている。

「……結局は、誰のせいでもなかったんだな。我修院も日向も、そして大友、お前だって悪くない。

誰ひとり悪くないのに、誰もが負い目に感じてしまっていたんだ。囚われてしまったんだ。一年前の、あの夏に……」

G M / 森ジュンペイ 「……大友。おまえの言ったことは正しいよ。あいつの死を、『悲しい運命』なんかにしたためにも……俺たちは前に進もうぜ。西島も水流乃の弟も、とっくにそのことに気づいてるみたいだしな。下級生たちに負けてなんていられないだろ？」

克敏 こっちはガチ泣き中なんで、何も言わないけど、泣きながらも黙って聞いているよ。

G M では、泣きじやくるきみたちの体を、ガッチリとした体型のジュンペイ君が（笑）、円陣を組むような感じで肩を抱いて慰めます。しばらくの間そうしていると、ジュンペイ君はきみたちが落ち着いてきた様子を見て、切り出します。「……おっと、そうだった！俺はお前ら呼びに来たんだよ！」

克敏 照れ隠しに目元をぬぐいながら、「な、なんだよ……？」

G M / 森ジュンペイ 「いやほら、今夜は合宿最後の夜だろ？だからさ、思い出作りにこれからみんな花火をしようって話になってさ。もちろん、お前らも来るよなっ？」明るい笑顔を二人に向けてさ。

克敏 「……必ず行くよ。でも、僕はもうちょっとここにいたい。ふたりに先に行ってくれ」

G M / 森ジュンペイ 「……そうか。必ずだぞ。待つてるからな！」

G M では、森ジュンペイ君と日向シホちゃんは退場していきます。

克敏 （ボソツと）……これで二人はうまく行くだろうっ（笑）

G M 二人にしたかったのね（笑）

克敏 うん、プレイヤー的に。大友は今、自分のことで手一杯だが！

G M ……さて、用意したシナリオはここまでです。何か他にやりたい演出とかあれば加えますが……やり残したこととか、ないかな？

克敏 うーむ……。まあ、これで最後にネットワークを置いていく描写に繋がったから、とりあえずいいかな。何言ってるか分からなかったら本編読んでくれたってことで（笑）

G M そっすか。じゃまあ、今回のセッションは終了です。ありがとうございました。

克敏 ありがとうございました！

克敏は、しばらくの間、そのまま夜風にあたっていました。そして、自然と笑みを取り戻し、何かを一言呟くと、みんなの待つ浜辺のほうへ向かって、ゆつくりと歩き出したのでした。

……おわり。